

2. 黒石らしい景観をかたちづくる要素

黒石市の景観は、山・山並み、河川・水辺等の地形や雪国の厳しい気候によって形成された風土が基盤となっています。この特徴ある地形や風土は、りんごや米に代表される農業、城下町にはじまる中心商業、古くから津軽地域で親しまれてきたいで湯の温泉地など、特徴ある生業を育んできました。また、市内の特徴あるまち並みや集落も、山や水、雪との付き合い方など様々な知恵と工夫の積み重ねによって生まれてきたものです。

これらのまち並みや集落は、近代化とともに変化してきていますが、こみせ通りや温湯周辺、地域を守る神社・寺院など、歴史とともに住民に親しまれている場所や建造物、ねふたやよされなどの祭礼や地域固有の伝統行事などの数多くの歴史的・文化的な資源に恵まれています。さらに、変化に富んだ四季は、多様な資源に彩りを添えています。

このような状況を踏まえ、次の4つの視点から、黒石らしい景観特性を把握し、その課題等を整理します。

〔黒石らしい景観を捉える視点〕

- 1) 景観の基盤となる地勢・気候
- 2) 風土や歴史に育まれた生業・産業
- 3) 市民が親しみ、育んできたふるさとの景観
- 4) 地域の環境と寄り添う暮らし

1) 景観の基盤となる地勢・気候

1-1 地形

本市は、北西から南東を長軸としたひょうたん状で、総面積の約8割を八甲田連峰に連なる山岳地帯が占めており、西部の平坦地は津軽平野の一部をなしています。このため、市内の多くの場所から西方に岩木山、東方に八甲田連峰を望むことができます。東に八甲田山系を抱え、津軽平野に開けた地形、2つの流域が育む田園風景という特徴的な地形が黒石の景観の基盤となっています。

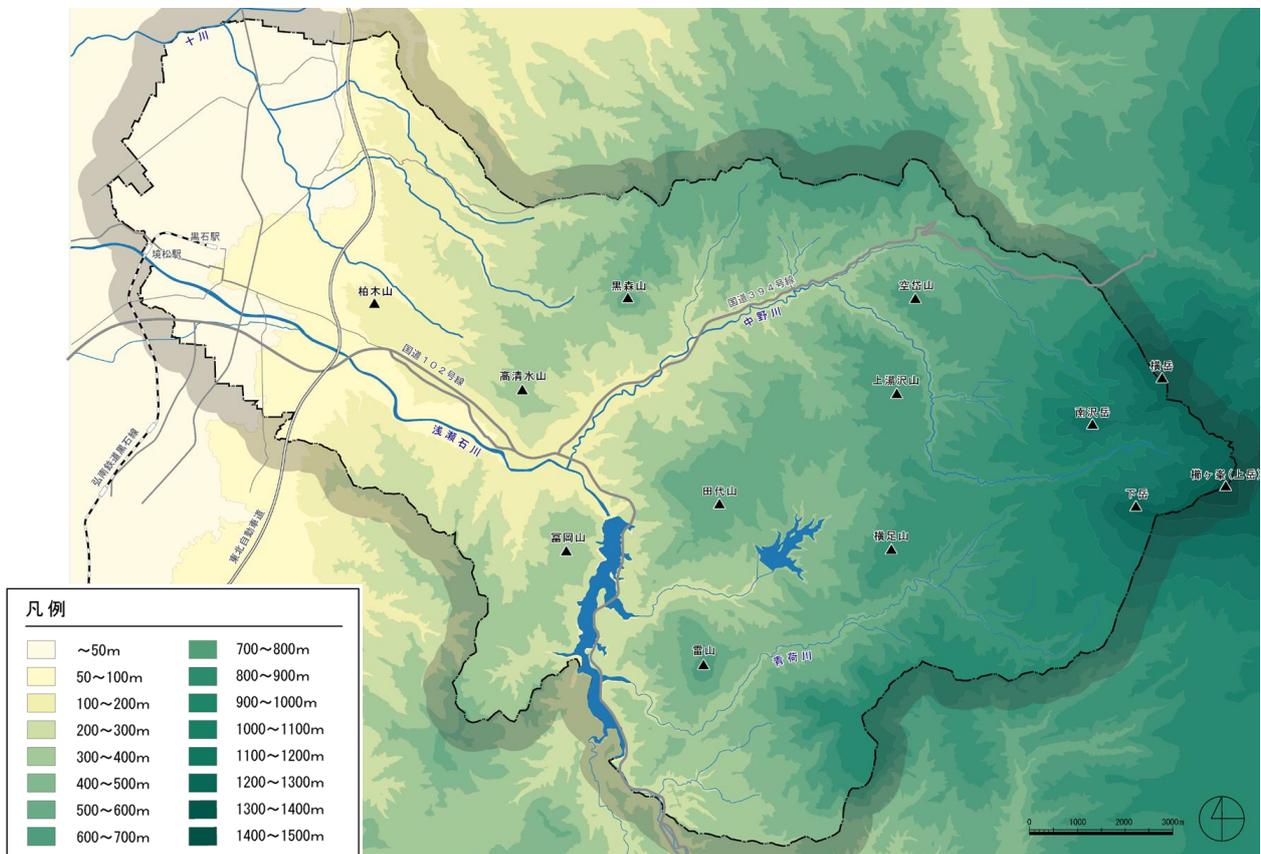
(1) 黒石台地上に広がる平坦地

本市の西部は、浅瀬石川沿いの平坦地と黒石台地に区分され、市街地や集落、水田地域で構成されています。黒石台地の東には標高50~100mの丘陵地が帯状に連なり、主にりんご畑として利用されています。これら丘陵地の稜線は柔らかく、黒森山などがスカイラインに変化を与えるアクセントとなっています。

(2) 穏やかな稜線をもつ八甲田連峰の一部を成す山間部

八甲田連峰の一部をなす東部の山間部は、集落に近い黒森山や高岡山等の標高500~800mの小さな峰を抱く山頂が緩やかな稜線を形成し、青荷川の水源地域が標高1,000mを超える山岳地域となっています。

図 黒石市における地形・水系



1-2 水系

(1) 浅瀬石川水系

十和田湖北西の櫛ヶ峰（標高 1,516m）に源を発している浅瀬石川は、中野川や青荷川など支流を集め、市街地南部を西に向かって流れ、弘前市内で岩木川に合流します。山間地域を流れる中野川や青荷川等の支流は狭い谷筋を蛇行しながら流れています。中野川が浅瀬石川と合流する付近から下流域は、川幅も広がり、周辺の平地では水田や集落などが形成されています。

(2) 十川水系

黒石台地上を流れる十川水系は、小規模な複数の河川で構成されており、緩やかな勾配でりんご畑や集落、水田地域を間を縫いながら、穏やかに流れています。



市域を東西に横断する浅瀬石川下流域より岩木山を望む



大川原付近を流れる中野川



目内沢を流れる十川

1-3 植生

山間地域の植生は、中野川や青荷川沿いは、スギやカラマツなどの人工林が中心であるが、その他は、標高約 600mまではブナ・ミズナラ群落、標高 600mを超える水源地域では、自然植生であるチシマザサ・ブナ群落であり、豊かな植生で構成されています。

なお、櫛ヶ峰の周辺は、十和田・八幡平国立公園に、黒石温泉郷を中心とした森林地域には県立自然公園黒石温泉郷がそれぞれ指定されています。

1-4 気候

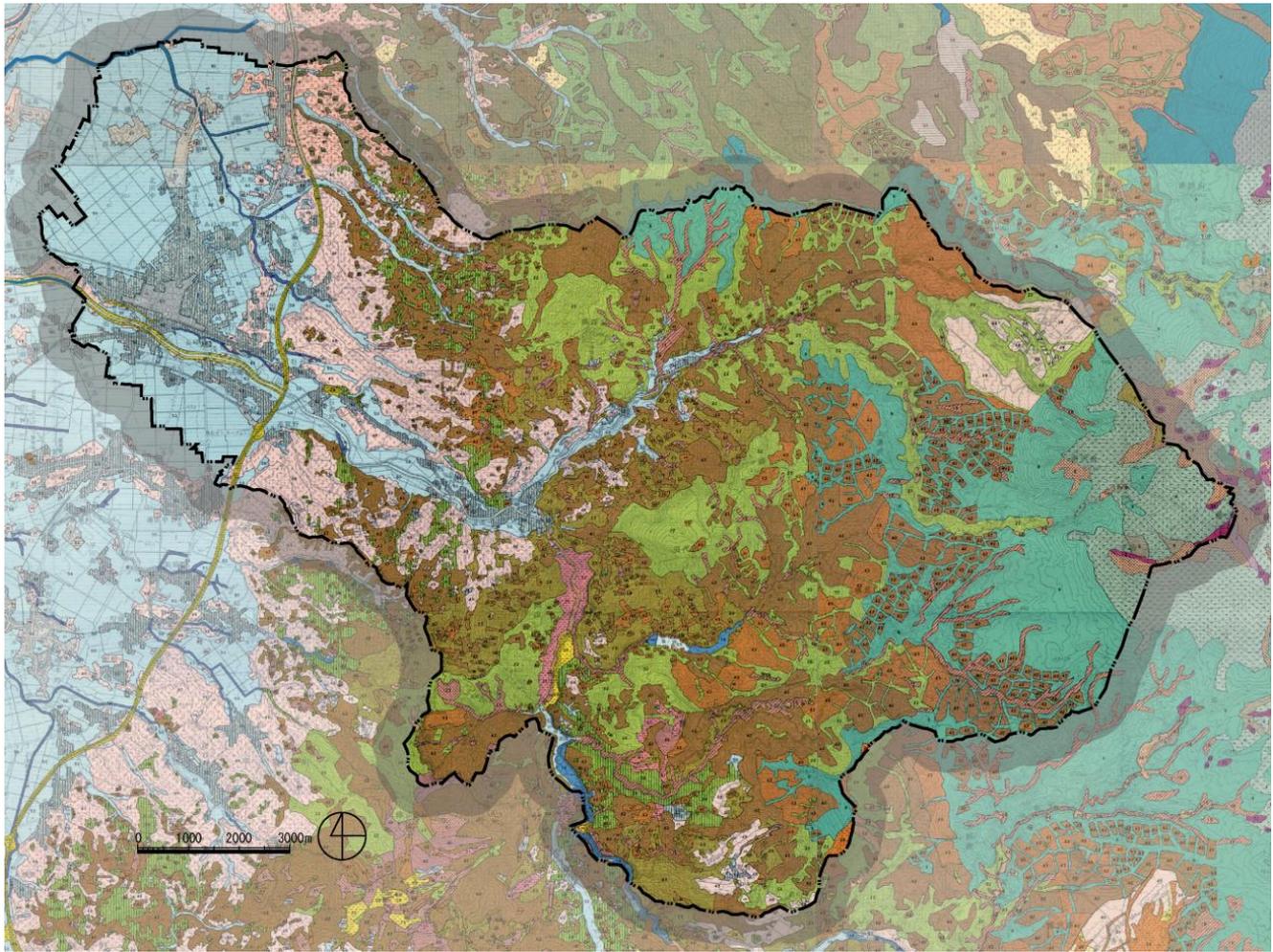
気候は日本海型気候に属し、三方が山に囲まれた盆地形の気象であり、年間平均気温は 9.9℃、冬季は偏西風が強く寒冷で、特別豪雪地帯（※）に指定されています。こうした気候が四季折々の変化をもたらすとともに、降雪期の住まい方や暮らし方として、「こみせ」を設置するなどの創意工夫を凝らすようになり、本市固有の景観を生み出しました。

※特別豪雪地帯

特別豪雪地帯とは、豪雪地帯対策特別措置法に基づき指定される地区。

特に積雪量が多く、かつ、積雪により長期間自動車の交通が途絶する等により住民の生活に著しい支障を生ずる地域を指す。

図 植生図



I. 寒帯、高山帯自然植生			IV. ブナクラス域自然植生			IX. 植林地、耕作地植生				
	雪田草原		チシマザサ-ブナ群落		アカマツ植林		スギ植林		カラマツ植林	
II. 亜寒帯、亜高山帯自然植生				ジュウモンジ-ダサワグルミ群落		落葉広葉樹植林		落葉果樹園		畑地雑草群落
	オオシラビソ群落		ヤナギ低木群落	V. ブナクラス域代償植生				牧草地、ゴルフ場、飛行場		水田雑草群落
	ササ-ダケカンバ群落	VI. ブナクラス域代償植生				ブナ-ミズナラ群落		市街地		緑の多い住宅地、公園、墓地
	ササ自然草原		カンワ-ミズナラ群落		カスミザクラ-コナラ群落		アカマツ群落		造成地、採石場、人為裸地、焼跡	
VIII. 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生				ススキ群落		タラノキ-クマイチゴ群落		開放水域		自然
	ツルコケモ-ミズゴケクラス		ヨシクラス							

2) 風土や歴史に育まれた生業・産業

2-1 賑わい（中心市街地）

(1) 歴史・文化、政治、経済の拠点

- ◇本市の中心市街地として商業・業務施設、公共・公益施設、住宅等が集積する地区であり、玄関口の1つである弘南鉄道黒石駅があります。
- ◇江戸時代より中町周辺は浜街道とよばれ商人地として賑わいをみせ、政治・経済・文化の面で南津軽郡の中心的な役割を果たしてきました。
- ◇現在も江戸期に由来するまちの形は継承されており、中町・前町・横町を中心に商業・業務施設が集積し、その周辺に住宅地が形成されています。

(2) 観光・交流の拠点

- ◇特色あるこみせのまち並みや、高橋家住宅や鳴海家住宅などの江戸時代中期から明治・大正・昭和初期に建てられた伝統的な建物が数多く並ぶ中町こみせ通りをはじめ、黒石城址、黒石神社や京町字寺町の寺院をはじめとする寺社、消防団屯所の火の見櫓などの歴史的な資源が歩ける範囲に位置しており、市の観光・交流の拠点となっています。
- ◇観光・交流の拠点施設である津軽こみせ駅は、こみせ通りにある旧家が土地・建物を手放すことになり、その跡地をマンションとして利用する計画が持ち上がった際に、こみせを後世に残そうとする地元有志が資金を出し合って土地・建物を買い取り、観光情報の提供、交流、土産物販売の場としたものです。敷地内には伝統的な蔵を活かした多目的ホールや、八甲田の伏流水が流れ出る壁泉と取水口があるなど、多くの観光客や住民に親しまれています。



市の玄関口の顔づくりが期待される黒石駅周辺



伝統的形式のこみせが連続する中町



造り酒屋を移築し住宅とした西谷家（こみせ美術館）を活かして店舗を実験的にオープン



中町とともに浜街道沿いの商人地として栄えた前町



中心市街地の主要な商店街のひとつである横町



寺院が建ち並び落ち着いた佇まいの感じられる京町字寺町

2-2 温泉地（黒石温泉郷）

（1）やすらぎを与え、交流を育む「いで湯」

- ◇浅瀬石川と中野川の合流地点に、板留、落合、温湯の3つのいで湯が存在し、浅瀬石川と後背の山に囲まれたロケーションは、いで湯の場にふさわしい落ち着いた佇まいが感じられます。
- ◇黒石温泉郷は、古くよりいで湯の地として多くの湯治客で賑わい、現在でも多くの市民や湯治客、観光客に親しまれ、観光・交流の拠点です。
- ◇400年の歴史を持つ温湯温泉は、共同浴場の他に木造の旅館や湯治客が逗留する客舎とよばれる宿が建ち並んでおり、これらが個性ある商店と混在し、いで湯の場としての歴史や風情を感じさせるとともに、のどかさや素朴さが感じられるまち並みとなっています。



木造の重厚な構えの旅館は湯治場としての歴史を感じさせる（温湯）



昔ながらの佇まいが感じられる町並み（温湯）



後背にりんご畑と山林を望む（温湯）

津軽系こけしの里 温湯

温湯は、津軽系こけし発祥の地としても知られています。こけしは東北地方にだけ生まれ、東北地方にだけ育ったという特殊な木地玩具。津軽木地業は温湯と大鰐の二つの系統があり、温湯は元和8（1622）年山形の最上家が改易となったとき、その家臣が、津軽二代信枚を頼り、浅瀬石川流域に住み着いたのが始まりとされます。

昭和55年、市民団体である山形地区住みよい環境推進協議会は、この地域の宝である「津軽こけし」を生かしたこけし史料館建設運動を開始。以来、積極的な活動を続け、全国伝統こけし収集の旅、こけしの里マラソンなど、「こけしの里づくり運動」を活発に展開し、全国のこけし愛好家、こけし工人、そして国からの支援もあり昭和63年「津軽こけし館」が開館されました。

参考：隔月刊あおもり草子 通巻二一四号

津軽こけし館ホームページ <http://tsugarukokeshi.com>



雪深い津軽の風土が生んだ津軽こけしは、工芸的な美と素朴な色彩が全国的にも高く評価されています



地域の市民活動を語り継ぐ場としても大切な津軽こけし館

(2) 交流を育む拠点的な施設

- ◇落合にある津軽伝承工芸館は、津軽の伝統的な文化を発信する広域拠点施設であり、施設のデザインは、その役割や機能にふさわしい建築デザインとして整備されています。
- ◇近年、人口減少の影響などにより小学校の統廃合や空き家の存在が顕在化しつつあり、集落景観にも変化が生じています。一方で、統廃合になった大川原小学校が地域交流に取り組む施設（おもしえ学校）として生まれ変わるなど、新しい動きも見られます。



平成 13 年に新築された共同浴場（温湯）



津軽の文化と風土を体験できる津軽伝承工芸館（落合）



地域交流の拠点の1つであるおもしえ学校（大川原）

黒石の2大文化から生まれた「こけし灯籠」

夏の風物詩、黒石ねぶた祭りは、昔からのねぶた灯籠の風情が最も残っているとされています。そのねぶた灯籠と伝統工芸のこけしから「こけし灯籠」が誕生し、黒石温泉郷や中心市街地をはじめ、市内のあちこちで新たな風情を生み出しています。

2010年から温湯を中心に「こけし灯ろう祭」を冬季に開催しており、2012年以降は秋の紅葉シーズンに合わせて開催されています。

市では日本一のこけし灯ろう祭りを盛り上げ、市の更なるイメージアップや観光PRの充実を図るため、こけし灯ろう祭実行委員会が製作するこけし灯ろうを購入する方への補助制度を設けています。



2-3 農業（水田・りんご畑）

（1）台地や河川沿いに広がる水田

- ◇本市の水田は、黒石台地上や浅瀬石川沿いの平地に面的に広がり、水辺や背景となる山並みと一体となり、のびやかで美しい田園風景を形成しています。
- ◇これら水田の多くは、耕地整理による農業基盤整備が行われたことにより、整然とした田園風景の中にも、集落の屋敷林や社寺林などがアクセントとなっています。
- ◇これら水田地からは、水田と一体的に岩木山や丘陵地の山並みを眺めることができるが、水田地域内の大規模な工作物（鉄塔等）の形態が、良好な眺め等に影響を与えているともいえます。

（2）斜面一帯を彩るりんご畑

- ◇本市のりんご畑の多くは、標高 50～100m程度の斜面地に帯状に広がっており、津軽地域においても大きな特徴であるといえます。このりんご畑は、地形に沿って栽培されており、黒石台地上の水田地域内からは水田とりんご畑が、丘陵地の上部（観光りんご園等）からは、近景のりんご畑と遠景の岩木山がそれぞれ視覚的に一体となって眺められ、地形と生業が生み出す黒石らしい景観の1つといえます。

（3）集落と一体となった水田・りんご畑

- ◇東北自動車道以北の中山間地に広がる農地は、集落と水田・りんご畑等の農地が、河川沿いに小さくまとまって点在しています。
- ◇これら、集落と一体となった農地は、地形の改変を最小限とするなどにより、背景の山並みと調和した、落ち着きや自然、暮らしの豊かさが感じられる景観といえます。
- ◇しかし、一部の水田等は、高齢化や後継者不足等の影響により、長らく耕作されていない農地が点在し、一部では不法投棄が行われるなどの好ましくない状況も見られます。

（4）戦後の開拓が生んだ高冷地農業

- ◇市の最東端に位置する沖揚平では、戦後の開拓事業によって入植した開拓農家の手で切り開かれた高冷地野菜を作付した畑が広がっています。
- ◇これらは、雄大で開放的な景観を展開しており、眺望スポットとしても知られています。

2-4 産業（工業系）

- ◇工業系の施設は、黒石運動公園の南北（北地区工業団地）と浅瀬石川左岸沿いの追子野木地区に点在しています。
- ◇本ゾーンは、総じて敷地規模も大きく、主要地方道大鰐浪岡線沿いに空地の確保や敷地内緑化がなされています。
- ◇工業施設の規模は大きく、その外観には穏やかなデザインが用いられています。



台地上に広がる水田と岩木山（秋季）



台地上の水田と斜面地のりんご畑（上十川）



浅瀬石川沿いに広がる水田（高賀野）



丘陵地の地形に沿って広がるりんご畑（浅瀬石）



りんご畑と遠景の岩木山を望む景観（観光りんご園）



雄大で開放的な景観が展開する開拓地（沖揚平）



接道部や外構の緑化が推進された工業施設（北地区工業団地）



敷地内緑化と親しみが感じられる外観の工業施設（浅瀬石川左岸）



住宅と工業施設が混在した地区（浅瀬石川左岸）